

令和5年度（2023年度）島根県立大学  
国際関係学部 国際関係学科  
国際コミュニケーションコース

一般選抜（前期日程）

小論文

【試験時間 90分】

以下の1から8をよく読んで、その指示に従うようにしてください。  
指示に従わない場合は、不正行為と見なしますので、注意してください。

1. 解答開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。許可なくこの問題冊子を開いた場合は、不正行為と見なします。
2. 試験時間は90分です。
3. 試験問題は、1ページから3ページです。解答開始の合図があった後、問題冊子を確認し、印刷不鮮明の箇所等があった場合は、直ちに申し出てください。
4. 解答用紙は2枚あり、問題冊子とは別になっています。解答は指定された解答用紙の解答欄に横書きで記入してください。
5. 受験番号、氏名は2枚の解答用紙の所定欄すべてに記入してください。
6. 問題冊子の余白を下書きに利用しても構いません。
7. 試験時間中の退出はできません。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。



試験問題は次のページから始まります。

## 第1問

次の文章を読んで、道徳的な正しさを功利主義の考え方で説明しようとするこの問題点を、具体的な例を示しながら、700字以内で述べなさい。

「道徳的な正しさ」とは「人間の行為の正しさ」のことですが、もう少しはっきり言うと、「他人に対する行為や他人を巻き込む行為の善悪」のことです。そして、そうした行為のうち、どのような行為が正しく、どのような行為が間違っているのかを定めたものがルールや規則というものです。「正しさ」は他人を巻き込むものであるからこそ、個々人が勝手に決めてよいものではなく、他人によって合意されてはじめて「正しさ」になるのです。（中略）

人間は、他の人間に対して、単なる物に対して抱くのとまったく異なる感情を抱きます。たとえば、私たちは他人に殴られると腹を立てますが、歩いていて電柱にぶつかったとしても電柱に対して腹を立てることはありません。人が困っていたら助けなければと感じますが、岩が土石流で押し流されても助けようとは思いません。そして、道徳的な善悪は、人間が他の人間に対して抱くこうしたさまざまな感情を出発点として作られていくのです。

「他の人間」というと限定しすぎかもしれません。たとえば、海にプラスチックごみを捨てるとウミガメがそれを食べて死んでしまうといった話がよく報道されています。そうした話を聞くと、多く人は「ウミガメがかわいそうだ」と感じ、「海にプラスチックごみを捨てるという行為は間違っている」と思うことでしょう。つまり、人間以外の動物に対する行為やそれを巻き込む行為も、道徳的な善悪の対象となるのです。

しかし、ウミガメと話し合っって行為の善悪を決めていくことはできませんので、人間以外の動物を巻き込む行為の善悪は、他の人間を巻き込む行為の善悪が拡大適用されるのが通常です。そこで、ここでは他の人間に関わる行為に限定して論じていきます。

ところで、実は「道徳的な正しさとは何か」という点について、倫理学者の間で統一的な見解があるわけではありません。私は道徳的な正しさとは他人に関わる行為の正しさのことであり、それはその行為に関わる人たちが合意することで決めていくものだと考えていますが、現在の倫理学の主流といってよい立場である功利主義ではそのようには考えません。功利主義は、「最大多数の最大幸福」という唯一の普遍的原理によって道徳を説明しようとしています。つまり、道徳的な正しさについての「真実の一つ」という立場です。

功利主義は、18～19世紀、産業革命によって資本主義が発展した時代のイギリスで、ジェレミー・ベンサム（1748～1832）が唱えた説です。「最大多数の最大幸福」はベンサムの言葉です。およそすべての人間は幸福を求める。幸福こそが人間にとっての善である。それゆえ、個人の幸福を最大化すること、幸福な人の数を最大化することが正し

い。個人が行為を選択するときにも、社会的な政策やルールを定めるときにも、「最大多数の最大幸福」が判断の原理となる。おおまかにいってそういうふうに考えます。

ベンサムが言うように、人間は幸福を求めるものだというのは、人間について普遍的に当てはまる事実だと思われます。(中略)あるいは、人間以外の動物についても当てはまるから、「人間の」普遍的特性ではないということかもしれません。ベンサム自身、「動物であっても快と苦痛の感情を持っているのだから、虐待して不幸にすることは間違いである」と論じています。

当初、ベンサムの思想は快楽主義や利己主義と混同され、当時の哲学者たちから「ブタの倫理」などといって嘲笑されました。しかしまず、功利主義は単なる快楽主義ではありません。目先の快楽に惑わされることなく、長期的な展望を持って、もっとも大きな幸福が得られる行為を選択するべきだというのが功利主義の考えです。

また、功利主義は利己主義でもありません。功利主義を英語では「ユーティリタリアニズム」といいます。「ユーティリティ中心主義」という意味です。哲学や倫理学の分野では「功利」と訳されるこの「ユーティリティ」という言葉の文字どおりの意味は「有用性」ですが、そもそも「物が役に立つ」とはどういうことかを突き詰めて考えると、結局のところは「人間の幸福に寄与する」ということになるでしょう。つまり、ユーティリタリアニズムとは「幸福中心主義」という趣旨の言葉なのです。

他方、利己主義とは、他人をないがしろにして自分だけの利益を図ることです。そのようなふるまいをして人間は幸福を得られるのかというと、そうではないでしょう。ベンサムは明言していませんが、人間がいちばん幸福であるのは、自分が利益を得たときであるよりは、むしろ自分の行為によって家族や友人などが喜んでくれたとき、さらには社会全体に貢献できたと感じるときではないかと思います。このように考えると、「幸福中心主義」は利己主義ではありえないというべきでしょう。実際、ベンサム自身、救貧法(貧困者の生活を支援する法律)の改正や監獄の改善など、貧困者や弱者の幸福が増大するような社会を目指して活動していました。

このように功利主義は、人間にとって善とは何か、どのような行為が正しい行為なのかを考えるうえで、なかなかもっともらしい思想です。それゆえに、現在の倫理学の主流といってよい立場を占めるに至ったのです。

(出典：山口裕之『「みんな違ってみんないい」のか?——相対主義と普遍主義の問題』(ちくまプリマー新書)筑摩書房、2022年。なお、出題にあたって、一部表現を改めたところがある。)

## **第2問**

**The University of Shimane has classes where students from around the world can meet via the Internet. Our students can speak with people in overseas universities by video link. If you could meet students from anywhere in the world during these classes, which country would you choose? Give reasons for your answer. Your response should be about 150 words in English. If using a Japanese word is necessary, make sure you add an explanation in English.**

試験問題は前のページで終わりです。

このページは下書きなどご自由にお使いください。

このページは下書きなどご自由にお使いください。



このページは下書きなどご自由にお使いください。

このページは下書きなどご自由にお使いください。